

## 三菱電機パッケージエアコン別売部品

KSH1C5・8・10・15・20 KWH1C5A・8A・10A・15・20

## 蒸気・温水ヒータ取付説明書

WT04409X02

- 取付けの前には、安全を確保するため必ずこの「取付説明書」をよくお読みください。
- 取付完了後はこの「取付説明書」を大切に保存してください。移設など重サービスを行うとき、きっとお役に立ちます。
- 安全のために必ず守っていただく項目を **⚠ 警告** **⚠ 注意** の形で記載しました。

### 安全のために必ず守ること

- 取付工事はこの「安全のために必ず守ること」をよくお読みの上、確実に守ってください。
- ここに示した注意事項は、安全に関する重大な内容を記載していますので、必ず守ってください。
- 誤った扱いをしたときに生じる危険とその程度を、次の表示で区分して表示しています。



#### 警告

誤った取扱いをしたときに、死亡や重傷などに結びつく可能性があるもの。



#### 注意

誤った取扱いをしたときに、傷害または家屋・家財などの損害に結びつくもの。

- 取付工事後、試運転を行い異常がないことを確認すると共に、取付説明書にそってお客様に「安全のために必ず守ること」や使用方法・お手入れなどについて説明してください。
- 取付説明書は取扱説明書・保証書と共に、お客様で保管いただくよう依頼してください。お使いになる方が変わる場合は、新しくお使いになる方にお渡しいただくよう依頼してください。

### ⚠ 警告

取付けは、販売店又は専門業者に依頼する。

- ご自分で取付工事をされ不備があると、火災・感電・水漏れ等の原因になります。

電気工事は電気工事士の資格のある方が、『電気設備に関する技術基準』『内線規程』および据付説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用する。

- 電気回路容量不足や施工不良があると、火災・感電等の原因になります。

配線は、パネルや端子カバーが浮き上がらないように整形し、パネルや端子カバーを確実に取付ける。

- パネルやカバーの取付けに不備があると、端子接続部の発熱・火災・感電等の原因になります。

異常時（こげ臭い等）は、運転を停止して電源スイッチを切る。

- 異常のまま運転を続けると、故障や火災・感電等の原因になります。お買上げの販売店またはお客様相談窓口にご連絡ください。

取付工事は取付説明書に従って確実に進行。

- 取付けに不備があると、火災・感電・水漏れ等の原因になります。

配線は所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部に配線の外力が伝わらないように確実に固定する。

- 接続や固定に不備があると、火災・感電等の原因になります。

改造はしない。

- 改造し不備があると、火災・感電・水漏れ等の原因になります。

お客様自身で分解・修理・移設はしない。

- 修理・移設等に不備があると、爆発・火災・感電・水漏れ等の原因になります。お買上げの販売店または専門業者にご相談ください。

### ⚠ 注意

各配線は、張力がかからないように配線工をする。

- 張力がかかると、発熱・火災・断線等の原因になります。

製品内部の金属エッジに素手で触れない。

- ケガの原因になります。

パネルやファンガード等を取外した状態で運転しない。

- 回転部・高温部・高電圧部に触れると、火傷やケガの原因になります。

運転を開始する6時間以上前に電源を入れる。

- 通電時間が短い場合故障の原因になります。シーズン中は電源を切らないでください。

製品を水洗いしない。

- 感電の原因になります。

濡れた手でスイッチを操作しない。

- 感電の原因になります。

運転停止後、すぐに電源を切らない。

- 必ず5分以上経過後に電源を切ってください。すぐに電源を切ると、故障や水漏れの原因になります。

ヒータ本体や配管などに素手で触れない。

- 高温あるいは低温になり、火傷、凍傷の原因になります。

## 1. 本キットには次の部品が入っています。

部 品 名	個数	部 品 名	個数	部 品 名	個数
蒸気・温水ヒータ本体	1	ヒータ銘板	1	※凍結防止サーモリード線	1
ゴムブッシュ	2	ヒータ用注意銘板	1	※樹脂製止金	2
ヒータ取付用ネジ	5	ヒータ配管注意書	1	※樹脂製止金用ネジ	2
※凍結防止サーモ取付ネジ	2	取付説明書	1	※凍結防止サーモ取付板	1
平座金	5	※凍結防止サーモ	1	※凍結防止サーモ取付板用ネジ	2

(※印部品は温水ヒータキットおよび、KSH1C15・20形の蒸気ヒータキットのみに付属しています。)

## 2. 本工事に必要な工具

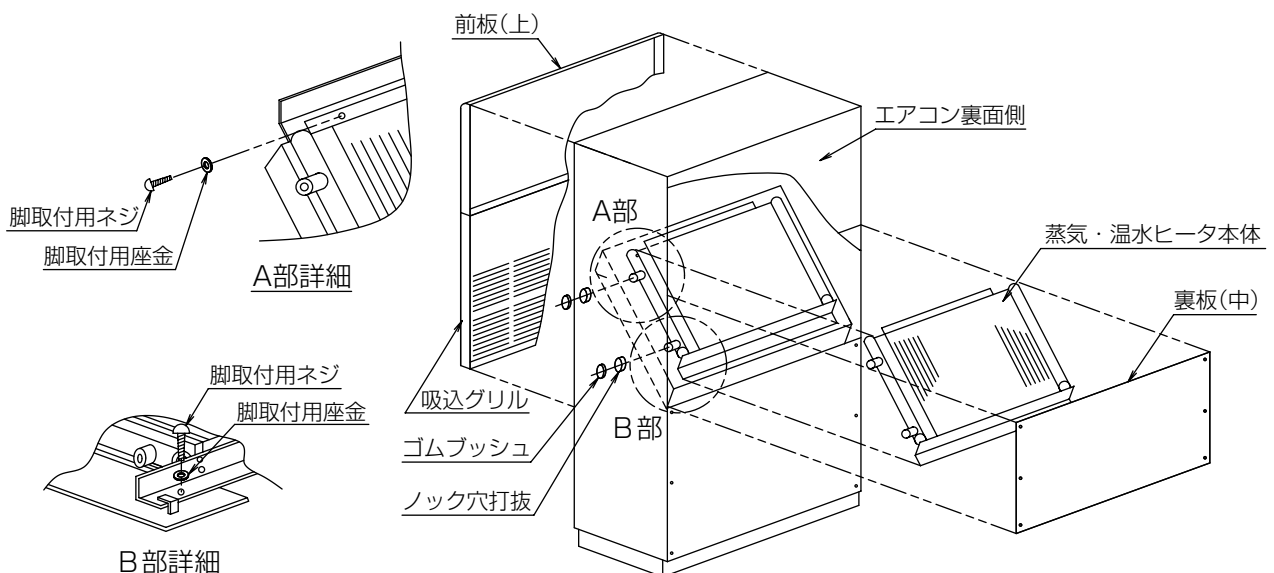
⊕ドライバー、電気ドリル

## 3. 取付手順

### (1) 蒸気・温水ヒータを組込む手順

- ・ 吸込グリル、前板(上)、裏板(中)(裏板(中)を取外せる場合)を取外す。
- ・ 側板のノック穴を打抜き、ゴムブッシュを取付ける。
- ・ 裏板(中)が取外せる場合は、ヒータ本体の後脚を蒸発器にネジ止めし、ヒータ本体の前脚も蒸発器にネジ止めし固定する。
- ・ 既設のエアコンで裏板(中)の取外せないものは、吸込グリル、前板(上)を取外し、蒸発器と送風機の間よりヒータを挿入する。  
この時、ヒータ本体の前脚と蒸発器はネジ止めして確実に固定してください。
- ・ **ヒータ銘板、ヒータ注意銘板**を貼付ける。  
(貼付位置は、配管を施した側の側板に貼付けてください。)

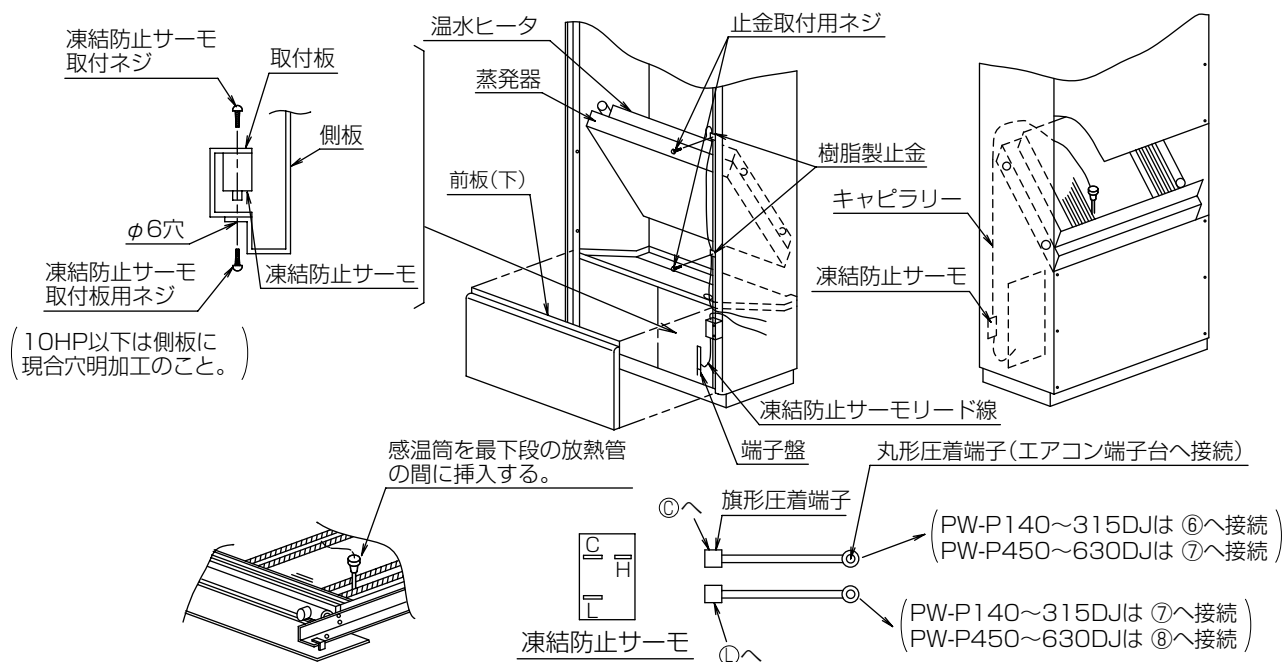
### 取付要領図



(2) 凍結防止サーモを組み込む手順

- ・前板(下)を取外す。
- ・凍結防止サーモを側板に取付ける。
- ・感温筒を下図のとおりヒータフィンの間に挿入し、放熱管に接触させる。
- ・エアコン端子台の短絡線を取外す。  
(PW-P140~315DJ...⑥,⑦間)  
(PW-P450~630DJ...⑦,⑧間)
- ・凍結防止サーモ (端子C,L)に付属のリード線を接続する。
- ・上記リード線の丸端子をエアコン端子台に接続する。(下図参照ください。)

取付要領図



(3) すべての作業が完了しましたら、パネル類を製品本体に元どおり取付けてください。

4. 作業上の注意点

- ・本取付要領図は、右配管勝手を示していますが、左配管勝手の場合も同要領にて作業してください。尚、左配管勝手の場合、ヒータエレメントを左配管勝手になるよう前脚、後脚を取付けてください。
- ・接続配管が水平に取付けられるかどうか確認してからネジ止めしてヒータを固定してください。
- ・凍結防止サーモのキャピラリー部は、損傷のないように確実に固定してください。

## 5. 使用上の注意点

- (1) 空気を抜きやすくするために、温水は必ず下から入って上から出るようにしてください。  
**(ヒータ配管注意書を参照)**
- (2) コイル内で凝縮する凝縮水を抜きやすくするために、蒸気は必ず上から入って下から出るように配管してください。**(ヒータ配管注意書を参照)**
- (3) ヒータ本体の管内に水が入った状態で冷房運転を行いますと、管の凍結パンクを起こす原因になりますので、冷房時には必ず管内の水を排出してください。
- (4) 水抜き必要性と実施方法については、お客様に十分な説明を行ってください。
- (5) 試運転およびシーズンイン時（使い始め時）には、配管各部に漏れ等がないか、およびバルブ締め忘れ等ないか確認ください。
- (6) 蒸気ヒータとして使用する場合、蒸気圧力は0.147MPa（145℃）以下としてください。
- (7) 温水ヒータとして使用する場合、温水温度は100℃以下としてください。  
また、温水流量は下表に示す数値以下としてください。

機種	温水流量 ℓ/min
KWH1C5A	55以下
KWH1C8A	80以下
KWH1C10A	110以下
KWH1C15	160以下
KWH1C20	220以下

- (8) 水質は、日本冷凍空調工業会標準規格JRA-GL-02-1994に定められた水質基準以下になるように、オーバーフローによるブリードオフ式や定期的な水質検査、およびインヒビタ投入などにより濃度や腐食の抑制を行ってください。
- (9) 夜間等ユニット停止時に凍結するおそれのある場合は、適切な凍結防止処置を施してください。